

名前:

今私たちは、いろいろな情報の海の中を毎日  
を過している。その中でも、インターネット  
と映像(テレビなど)が占めるパーセンテージは日  
々高くなっている。物に惹かれたちは、イ  
ンターネットを通じて多くの情報を接してい  
るといふ。その傍に、新聞や雑誌、本などは  
どんどん私たちの生活からはなれていく。  
それはさうだ。なぜなら、新聞や雑誌に比  
べ、インターネットの方がずっと手に入れや  
すく(一度クリックするだけで多様な文を読  
める)、有休物ではないので時間や空間上の  
せいぜいがないからだ。そして何よりも早く  
情報を得られるということもある。このよう  
なインターネットの強さのため、新聞などの  
産業はそのいきおいを失っている。  
まだインターネットになれていないとしよ  
りの人にはパソコンのモニターより紙面上の  
文子を読むのが気楽である。ようだが、パソコ  
ンになれはている今の世代が成長して社会に  
出るころにはもうそのようなこともないはず

だ。そんな世界で、今にしても高くとは言え  
ない新聞や雑誌のびゅうようかのびるとはどう  
てい思えない。  
その故、今すぐではなくとも、いずれ新聞  
や雑誌などはWeb上のものになると思う。そ  
ちろん、インターネット上の情報に比べ新聞  
らが持っているリットー充分に時間を完成  
されたせんもんせい、より高いクォリティー  
の情報などーがあるため、そのコンテニツは  
これから消えることはないだろう。ただし  
そのコンテニツがどのような形で読者に読ま  
れるかの間提だ。それは今のように紙の上で  
はなく、パソコンやPMP、ハイタインのモニ  
ターを通じて私たちの目にたどるとおそくさ  
れる。実際に、多くの新聞や雑誌社がネット  
上のサービスに移行したり、少なくともほと  
の作業に力を入れていることを見るとわかる。  
そのような流れがいつ完了されるかはまだわ  
かりがたいが、いつかその日は来るのではな  
いかと、私は思う。

1800字